

平成28年司法試験 合格体験記

平成27年度修了（未修コース）徐 英教

1. 自己紹介

私は、地元の大学を卒業し、平成24年に岡山大学法務研究科に入学しました。

生まれも育ちも東京で、岡山には縁もゆかりもありませんでしたが、私が入学する前年の司法試験の結果（合格率31.5%、全国12位）を見たことが、本研究科進学の大きなきっかけとなりました。

大学院時代は、コツコツと勉強をするタイプではなく成績も悪かったため、半期留年してしまいましたが、運良く一回目の司法試験受験で合格することができました。

2. 本研究科について

本研究科の特徴は、①少人数制であることと、②手厚いサポート体制が整っているということです。

まず、少人数制での最大のメリットは、直近の司法試験合格者が身近にいるということだと私は思います。在学生・修了生は、基本的には一つの研究棟で勉強しているため、名前までわからなくても、全員が顔見知りです。そのため、直近の司法試験合格者から話を聞きやすく、試験合格のためにどのような勉強をすべきかなどの生きた情報を得ることができます。

次に、サポートについては、授業の他に課外授業やゼミを見てくださる熱心な先生方、また、よりよい学習環境を整えて下さり、日々学生たちの相談も聞いて下さる事務スタッフの方々がいらっしゃるため、勉強に打ち込める環境だと思います。

特に、先生方は優しくもときには厳しく、私のように実力がない者には単位を取得させてくれません。私の場合は、刑事系の科目に関してめっぽう弱く、各学年で単位を落としてしまい、留年までしてしまいました。しかし、先生方のそのような厳しい指導があったため、司法試験では、短答式・論文式と刑事系科目で良い成績を収めることができ、とても感謝しております。

さらに、本研究科には、有志の方々による独自の奨学金制度があったり、模擬試験の受験料補助の制度があったりと、経済的な面でも支えていただけます。

この場をお借りして、本研究科を支えてくださる方々に改めて御礼の挨拶を申し上げます。

3. 受験生の方々へ

「司法試験はいかに少ないツールで合格するかだ。」

私が本研究科に入学する前のガイダンスで聞いた言葉です。司法試験に合格できた今、正にその通りだと感じます。

知識のインプットももちろん大事ですが、書く訓練を怠らないでください。当たり前のことですが、司法試験は答案に書いたことだけが評価・採点される試験です。答案を書いて、見直す作業をしっかりとすれば、おのずと答案作成能力は上がります。

答案を書くことは本当に大変な作業ですが、友人たちと自主ゼミを組むなどして乗り越えてください。本研究科には、自主ゼミも快く引き受けて下さる先生方もいらっしゃいます。

最後に、今みなさんが置かれた環境がととてもすばらしい環境であるということを今一度伝え、ペンを置きます。

がんばってください。